

米国の公民権運動の発端は奴隸解放

奴隸解放から公民権法の成立までの100年

ジャーナリスト

三木 寛郎



スプリングフィールドにあるリンカーンの家

ケネディの100年前に大統領になつたリンカーン

1809年2月12日。後に第16代米国大統領となるエイブラハム・リンカーンは、ケンタッキー州の片田舎に生まれた。さまざまな職業を転々としながら20代でイリノイ州に移り、スプリングフィールドという町で弁護士となり、州議会議員となつた。1846年35歳の時にイリノイ州選出の米国下院議員となり、国政に乗り出すが、正義感の強い弁護士肌の彼は半ば挫折した状態で下院議員を1期のみ努めると、イリノイ州スプリングフィールドに戻り、彼の精力のほとんどを弁護士の活動に向かひた。この時代、奴隸制そのものは米国南部では依然として合法であつたが、北部のイリノイ州のような地域では違法とされはじめていた。そう

した中、リンカーンは奴隸制には反対の立場を取り、南部を攻撃することはしないまでも、奴隸制が拡大することには異を唱える立場だつた。

しかし、リンカーンの取つた立場は、南部に存在する奴隸制度については干渉するつもりはないというもので、彼は時間をかけて奴隸問題を解決しようとを考えていたようだ。ところが、そんな最中、1854年に

奴隸制を推進する内容のカンザス・ネブラスカ法が成立。これをきっかけにリンカーンは再び中央政府を目指すことになる。1860年5月9日(10日にイリノイ州デイケーターで開催された共和党イリノイ州大会で、リンカーンは初めて州推薦大統領候補に指名された。同年11月6日リンカーンは、民主党候補のスティーブン・ダグラス、南部民主党候補のジョン・ブレッキンリッジおよび新党の立憲連合党候補のジョン・ベルを破つて第16代アメリカ合衆国大統領となる。共和党からの初めての大統領だつた。北部と西部からは多くの支持を集めめたが、残念ながら南部では当時15州あつた奴隸州の10州で得票数が0であつた。

こうして1861年3月に米国大統領就任式を迎えたことになつたが、それに先駆けて1860年12月、サウスカロライナ州が合衆国からの脱退条例を採択すると、ミシシッピ州、アラバマ州、ジョージア州、ルイジアナ州、テキサス州、フロリダ州が次々と追従。さらにそのうち6つの州が団結し、新たな憲法を制定、「米連合国」という主権国家を宣言し、翌年の2月にはジェファーソン・デイヴィスを暫定大統領に選出してしまつた。15代大統領ブキャナン大統領と次期大統領のリンカーンはアメリカ連合国(南北戦争)の認知を拒否。脱退は違法であると宣言することになる。

奴隸解放宣言と南北戦争の眞実

大統領就任式に向かうため四半世紀を過ごした第二の故郷スプリングフィールドを出発する際にリンカーンはこんな言葉を残している。

月、サウスカロライナ州が合衆国からの脱退条例を採択すると、ミシシッピ州、アラバマ州、ジョージア州、ルイジアナ州、テキサス州、フロリダ州が次々と追従。さらにそのうち6つの州が団結し、新たな憲法を制定、「米連合国」という主権国家を宣言し、翌年の2月にはジェファーソン・デイヴィスを暫定大統領に選出してしまつた。15代大統領ブキャナン大統領と次期大統領のリンカーンはアメリカ連合国(南北戦争)の認知を拒否。脱退は違法であると宣言することになる。

「皆さんへの感謝を湛えてこの土地を去る。いつになつたら帰れるのか、はたまた再び帰れるのか…」

それほど悲壮な決意であつたのだ。こうしてリンカーンが米国大統領に就任すると、南北戦争が勃発する。

ヨーロッパの産業革命を受け近代化する北部諸州と、黒人奴隸の労働力に支えられた綿花等の栽培を産業とする南部諸州の生活基盤の違いが大きく影響した、まさに奴隸解放を基軸とした戦いであつた。ちなみに日本では南北戦争と呼ぶが、米国では「CIVIL WAR」つまり市民戦争と呼ばれる。この戦争のさなか、1962年9月にリンカーンは奴隸解放宣言をおこなつたとされているが、厳密にはこの段階で行われたのは奴隸解放予備宣言ともいべきもので、1863年の1月1日までに南部諸州が連邦に復帰しない場合にはその日を期して黒人奴隸を開放するという内容だつた。もちろん、これに応える南部の州はなく、1965年3月に米連合国の首都リッチモンドが陥落して戦争が終結するまで4年にわたる戦いが続くことになる。

また、黒人と白人は公共の場でも

1865年4月14日、フォード劇場で喜劇を観劇中に南部出身の俳優J・W・グースに後頭部を撃たれ暗殺された。これが、アメリカ史上初の大統領暗殺事件である。

奴隸は解放されたが、平等は担保されなかつた

こうして南北戦争が終結し、南部諸州の黒人奴隸は解放されたが、そ

うはいつてもいきなり働き口があ

わけでもなく、もともと充分な教

育を受けてきたわけでもない黒人た

ちは、必ずしも自由に世の中を歩き回ることにはならなかつた。た

とえば、シェアクロッパーと呼ばれる

小作制度では、それまで奴隸の主人

だつた地主が解放された奴隸たちに

住居や耕地、種子、農具、家畜など

貸し付け、クロッパーと呼ばれる黒

人たちはその代償として家族ぐるみ

で住み込みで耕作を引き受け、収穫

な最期を遂げた黒人たちも少なく

なかつた。

こうした逆境を跳ね返し、黒人た

だらう。黒人はもとより様々な国籍

や肌の色を持つ多くの人々が、米国

だけではなく世界に暮らしている。い

ま、明確に米国至上主義を謳う大

統領の下、米国はこの先どのような

100年余り後、以前本誌でも紹介

した1950年代からキング牧師ら

によって展開された公民権運動の成



リンカーンの墓碑